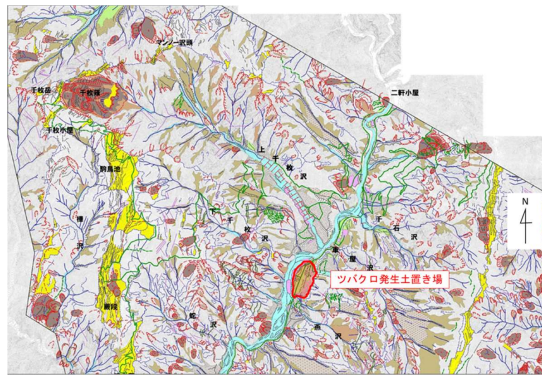


樺島での水位変化（発生土置き場 左：無し 右：有り） 最終的な土砂堆積深

専門部会委員のご意見を踏まえた検討

① 広域的な複合リスク（土石流の同時多発の可能性等）

→ツバクロ発生土置き場周辺の各沢において、不安定な地形が見られないか、地形判読図を作成し確認いたしました。その結果、上千枚沢からの土石流に加えて、他箇所での土石流が同時に発生し、複合的に影響を与えるリスクは小さいと考えています。

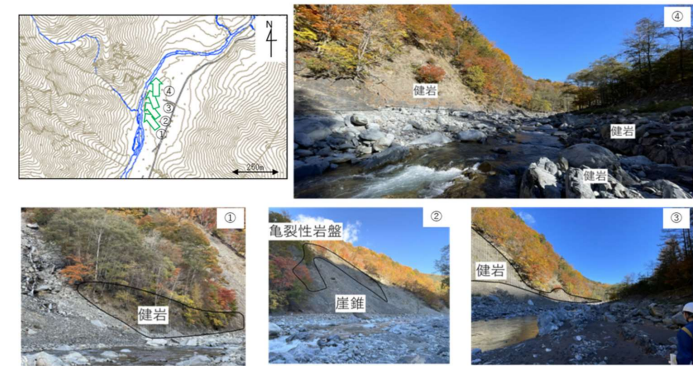


確認に使用した地形判読図

→なお、専門部会委員からご意見のあった地震時の対岸斜面の崩壊のリスクに対しては、当社としてはこのリスクを認識したうえで、地震時の点検や崩壊発生時の対応等について検討を進めてまいります。

② 対岸の浸食による斜面崩壊の発生リスク

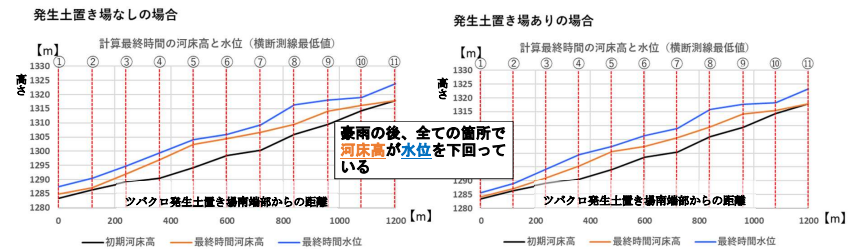
→地形地質の面では対岸の斜面の侵食による崩壊が起きにくい状況を確認し、置き場の有無により河床高と水位にほとんど差がないことを確認しました。流速については、発生土置き場がない場合約7.0m/sであった一方、発生土置き場ありの場合約9.0m/sとなりましたが、一時的なピーク値であり、斜面に作用する時間は短いものと考えられます。しかしながら、豪雨が発生した場合に對岸の侵食状況を確認するなど、対応について引き続き検討を進めてまいります。



対岸斜面の状況

③ 土石流の緩衝地帯としての機能低下

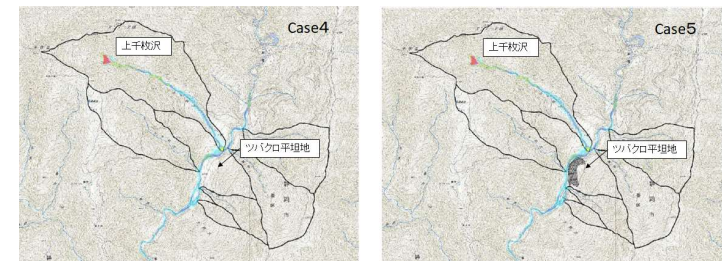
→シミュレーションの解析結果より、発生土置き場周辺の大井川本流で土砂ダムは形成されないことを確認いたしました。よって、発生土置き場の有無による緩衝地帯としての機能の差は小さいと考えられます。



土石流発生後の河床高と水位の検討結果

④ 深層崩壊シミュレーション条件の検討

→土石流の規模は不確実性が大きいため、より規模の大きい150万m³とした場合の感度分析を実施し、傾向を確認しました。85万m³の計算結果と同様に、発生土置き場の有無による影響の違いは小さいことを確認しました。



土砂堆積深感度分析結果（発生土置き場 左：無し 右：有り）